

「いのちの授業」について

授業の様子、過去の報告書、先生用教材など詳しくはHPをご参照ください。

<https://gansapo.jimdo.com/いのちの授業/>

平成28年度 「いのちの授業」報告書



- 1、平成28年度「いのちの授業」実施校一覧
- 2、平成28年度「いのちの授業・学校教諭対象の意識調査結果」

NPO法人がんサポートかごしま

平成28年度「いのちの授業」実施校一覧

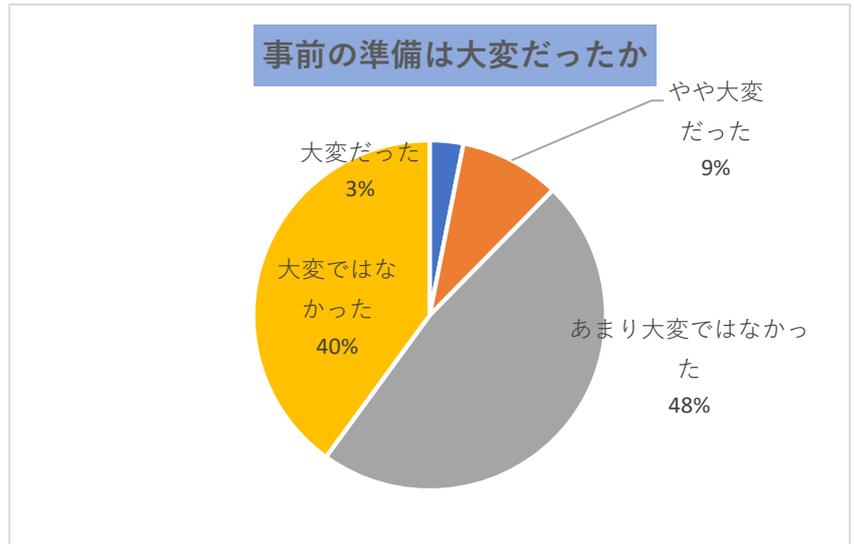
	学校名	学年	クラス	人数	地域	電話番号	授業
1	出水小学校	6	2	48	出水	0996-63-2151	2016/7/1(金)
2	大川内中学校	中1~3年	-	27	出水	0996-68-2300	2016/7/1(金)
3	小山田小学校	6	1	12	鹿児島	099-238-2558	2016/7/8(金)
4	福平中学校	中2.3年	7	270	鹿児島	099-261-3624	2016/7/9(土)
5	南小学校	6	2	67	鹿児島	099-253-5304	2016/7/11(月)
6	上小原中学校	中2	1	32	鹿屋	0994-63-2080	2016/9/26(月)
7	伊敷小学校	6	2	70	鹿児島	099-229-2521	2016/10/8(土)
8	牛尾小学校	5	1	11	伊佐	0995-22-0264	2016/10/27(木)
9	桜山小学校	6	1	30	枕崎	0993-72-9883	2016/10/31(月)
10	吉野東小学校	6	5	164	鹿児島	099-244-3881	2016/11/4(金)
11	東出水小学校	6	1	39	出水	0996-63-2160	2016/11/2(水)
12	武小学校	6	3	99	鹿児島	099-255-6136	2016/11/12(土)
13	東谷山中学校	中3	7	254	鹿児島	099-268-1271	2016/11/16(水)
14	向陽小学校	6	2	72	鹿児島	099-265-3223	2016/11/25(金)
15	伊敷台小学校	6	3	94	鹿児島	099-229-0181	2016/11/28(月)
16	羽月西小学校	5.6	1	3	伊佐	0995-28-2002	2016/11/30(水)
17	田中小学校	5	1	12	伊佐	0995-26-0029	2016/11/30(水)
18	要小学校	6	1	42	東京	0995-22-0263	2016/12/5(月)
19	南永小学校	6	1	4	伊佐	0995-26-3980	2016/12/9(金)
20	田代小学校	5.6	1	18	錦江町	0994-22-0511	2016/12/10(土)
21	犬迫小学校	6	1	14	鹿児島	099-238-0550	2016/12/14(水)
22	中洲小学校	6	2	70	鹿児島	099-253-9181	2017/1/11(水)
23	菱刈小学校	6	1	13	伊佐	0995-26-0010	2017/1/12(木)
24	西伊敷小学校	6	2	72	鹿児島	099-220-8057	2017/1/14(土)
25	大口東小学校	5.6	1	12	伊佐	0995-22-0263	2017/1/17(火)
26	川上小学校	6	3	89	鹿児島	099-243-0576	2017/1/25(水)
27	隈之城小学校	6	4	138	薩摩川内	0996-23-2604	2017/1/27(金)
28	永利小学校	6	3	83	薩摩川内	0996-23-2804	2017/2/1(水)
29	草牟田小学校	6	3	93	鹿児島	099-225-3625	2017/2/3(金)
30	山野小学校	6	1	14	伊佐	0995-22-0420	2017/2/17(金)
31	石谷小学校	6	2	48	鹿児島	099-278-1008	2017/2/17(金)
32	川内南中学校	中3	6	206	薩摩川内	0996-23-4602	2017/2/20(月)
33	武岡台小学校	6	2	55	鹿児島	099-281-1545	2017/2/24(金)
34	大口明光学園高校	高3	2	19	伊佐	0995-22-0609	2017/2/28(火)

2017/3/12現在

- 実施校数 **34校** (小学校:28校、中学校:5校、高校:1校)
- 実施生徒数 **2,294人** (小学生:1,486人、中学生:789人、高校生:19人)
- 実施地域 鹿児島市:16校、薩摩川内市:3校、伊佐市:8校、出水市:3校
枕崎市:1校、鹿屋市:1校、錦江町:1校、東京:1校

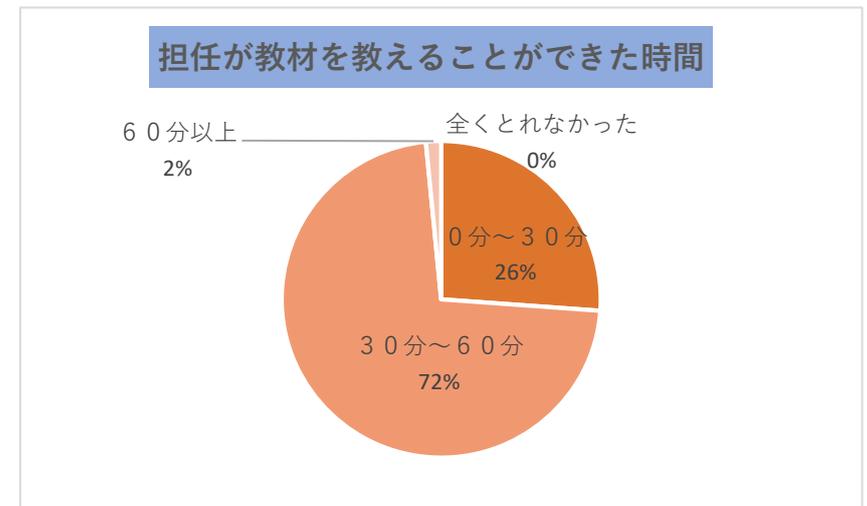
■事前の準備（アンケート実施等）は大変だったか

項目	内容
大変だった	2
やや大変だった	6
あまり大変ではなかった	31
大変ではなかった	26
計	65



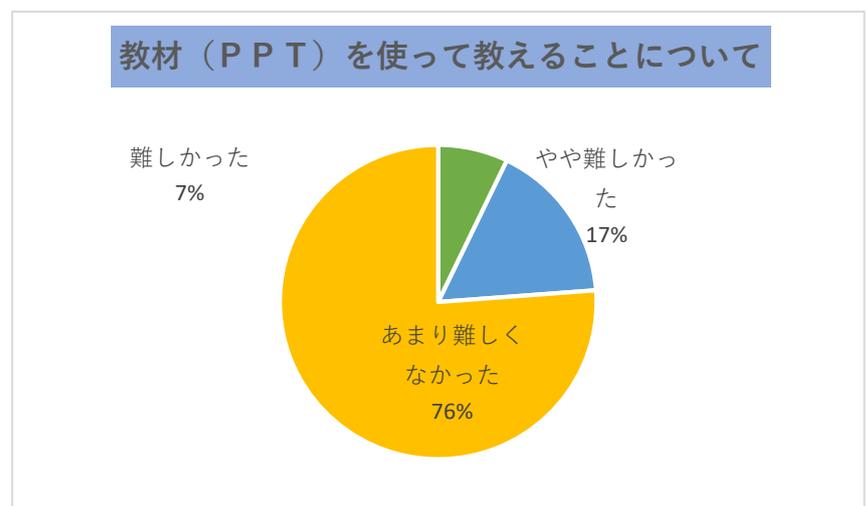
■「がんのことを知ろう」教材を担任の先生から教えることができた時間

項目	内容
全くとれなかった	0
0分～30分	17
30分～60分	47
60分以上	1
計	65



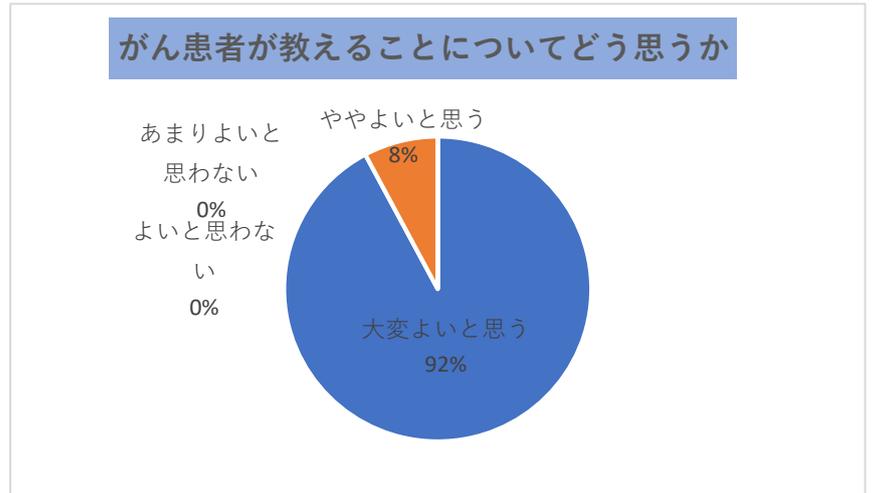
■「がんのことを知ろう」教材をパワーポイントを使って教えることについて

項目	内容
難しかった	3
やや難しかった	7
あまり難しくなかった	32
難しくなかった	22
計	64



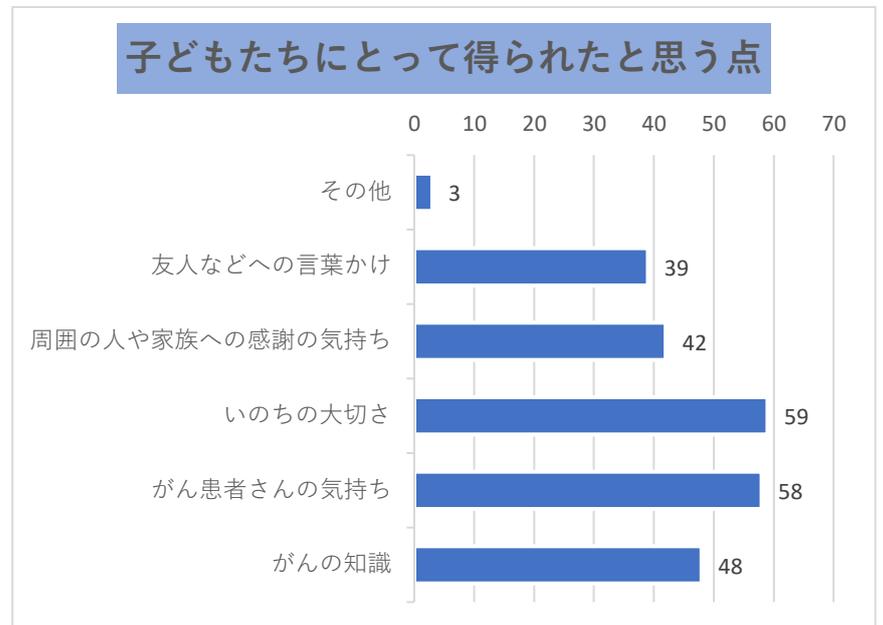
■がんについての教育を、がん患者が教えることについてどう思うか

項目	内容
大変よいと思う	59
ややよいと思う	5
あまりよいと思わない	0
よいと思わない	0
計	64



■「いのちの授業」を通して、子どもたちにとって良かったと思う点をお選びください。

項目	内容
がんの知識	48
がん患者さんの気持ち	58
いのちの大切さ	59
周囲の人や家族への感謝の気持ち	42
友人などへの言葉かけ	39
その他	3
	249



■「がんのことを知ろう」を教える際に難しかったことがあればお書きください。

【小学校】

- ・子どものアンケート（事前）の中でも、「がんは怖い」と書いてあった。もっと安心だよという意識を持たせられなかった。
- ・それぞれの子もたちが持っている知識に差があり、詳しい説明を要する子がいましたが、少人数の学級のため疑問等にもこたえることができ、良い機会となった。
- ・知識をどこまで教えるか、わかりやすく説明する手立て
- ・自部自身の理解に自信がないというところです。しかしパワーポイントがあったので助かりました。
- ・実際に母親が乳がん治療中の子がいたので、その子に対するケアをどうしようかと思った。
- ・「細胞」といっても小学生にはまだピンとこないことが多く、少し難しさもありましたが、何となくは分かってもらえたのかなと思います。
- ・アンケートやスライドは、用意してくださったものを使用するだけでしたので事前準備も大変ではありませんでした。
- ・どのようなものか考えさせる中で軽はずみな言葉が出やすい現状があるので、環境（雰囲気）をしっかり整えて取り組むことが大切だと感じた。
- ・その他、道徳や総合でも「ハンセン病」「水俣病」などを取り扱っていたので、子どもたちは真剣に考えてくれたように思う。
- ・当初、がんに対するイメージをよく思っていない子も多く、そのイメージを良くすることが難しいと感じた。
- ・特にありませんでしたが、事実をありのまま伝えることに注意した。（いたずらに怖がらせたりしないように）
- ・教える側の偏見のようなものが入ってはいけないと言葉に気を遣った。でも授業をしていて、こみ上げてくるものがあり、後になって「もしかして患者さんをかわいそうと思っているから？」と自問したがわからなかった。
- ・がんの種類を伝えるのが難しかった。
- ・パワーポイントのプリント資料があったのである程度それに沿って指導できたが、教室のパソコンでそのソフトを起動させること自体が難しいので、結局書画カメラでプリント資料を移しながらの授業になった。

【中学校】

- ・身内に患者さんがいる場合、言葉に気を付けなくてはと意識過剰だったかもしれない。
- ・がんが身近なものであると何となくわかっているが、自分や自分の家族のこととして重ねることが生徒には難しかった。
- ・過半数の生徒たちは真剣な態度で学ぼうとするが、10数名の生徒たちが余計な質問をしたり、私語に興じたりして苦慮した。内容が大切な事柄ただけに流れを修正する時間もかなり必要だった。この授業の取り組みの問題ではなく、学級の質と指導者の力量の問題です。

- ・自分自身に「がん」の知識がなかったので、パワーポイントを見ながらの説明とはいえ難しかったです。
- ・放射線と放射能の違いなど調べたが自分の言葉でうまく生徒に伝わるか心配だったので、伝えることができなかった。
- ・医学的な確実な知識に理解・自信がなかった。
- ・生徒が皆さんに失礼な言葉・態度などがなかったか気になりました。子どもとは素直な分だけ時として残酷です。
- ・放射線治療について、「放射線」と「放射能」の違いを分かりやすく伝えることができなかった。
- ・教科（理科）上の知識と実母ががんであったたことの知識もあり、特に難しさは感じなかったが、学級に直近でがんで身近な人を亡くしていた場合は、難しかったかもしれないと思った。
- ・ある程度の予備知識があったうえで授業をすべきかなと思いました。一緒に学ぼうというスタイルでした。
- ・前日に目を通しての指導となってバタバタしてしまったのでもっと早めにパワーポイントに目をとおして予習しておけばよかった。
- ・教師用の資料としてパワーポイントのスライド横に補足や説明のポイントが書かれていて使いやすかったです。
- ・放射線治療と放射能の違いについては十分にわかりやすく説明することができず、当日、講師の先生に迷惑をかけてしまいました

■別冊指導用資料についてのアドバイス

【小学校】

- ・とても分かりやすく良かったです
- ・パワーポイントの指導資料は分かりやすく指導する側も余裕をもって指導することができました。（漢字が苦手な子が在席しているのでふりがなを勝手に打たせてもらいました）
- ・難しさは感じませんでした。親しみやすいイラストでとても分かりやすい資料でした。
- ・教えるポイントが書かれていて分かりやすかったです。
- ・実体験をされた方にしか伝えられないもの（表情や口調）をお持ちになられているから。
- ・とても分かりやすく指導をやりやすかったです。
- ・がんの種類や治療について基本的な部分は理解できた。
- ・パワーポイント資料を授業の中でもいくつかは復習にもなるので、使ってもいいのかなと思います。
- ・図や表を使って詳しくまとめられていたので、分かりやすかったです。
- ・よくできたパワーポイントだったので教えやすかったです。
- ・近頃、ゲーム等で人を殺して先へ進むなどのソフトがあり、子どもたちも youtube などによく目に入っているようだった。ゲームの世界と人間は違うこと、命の尊さについても教えられるとよいなと考えました。（情報モラルでも扱いますが、できれば・・・）
- ・良い資料でした

- ・パワーポイントになっていたので、以前よりもとてもスムーズに説明ができてよかった。
- ・分かりやすい内容で、パワーポイントがあったので、子どもたちも興味をもって聞いてくれました。
- ・詳しく書かれていたので分かりやすかった。
- ・資料やスライドが分かりやすかったのでよかったです。
- ・ポイントを押さえてあってわかりやすいと思います。挿絵も受け入れやすい。
- ・パワーポイントの資料もとてもまとめられていて使いやすかった。
- ・それぞれのページに伝えることが書かれておりとても使いやすかった。
- ・パワーポイント資料を授業の中でもいくつかは復習になるので使ってもいいのかなとおもいました。
- ・4ページ等、がんの細胞が増えていくのをアニメーションを使って表現していますが、アニメーションが1つ1つになっているのである程度まとまりごとにアニメーションを設定したらいいのなと思いました。

【中学校】

- ・確率（がんて亡くなる可能性等）が最新のものなのか？あまり変わらないものですか医学の進歩等で変わっているものであれば・・・
- ・パワーポイントを実際に動かしながら予習しておくで大変使い勝手がよかったです。
- ・イラストも大きい文字で見やすかった
- ・データについては最新のものがよいのではないかと思いました。

■がんについての教育を、がん患者が教えることについてよいと思った理由

【小学校】

- ・実体験の中での話なので子どもが真剣に聴いていた
- ・がんという言葉は知っているが、そのことについて子どもたちは具体的な内容をほとんど知らないので今回すごく良い機会となった。
- ・「こわい」「痛い」「死」などのイメージだけは、いろいろなものから受けているが、本当のを知る機会はなかなかないから。また「なんでも聞いていい」と言ってくださることがとてもありがたいです。
- ・身近にがん患者がいてもなかなか思いなどを聞く機会がないのと命の大切さを伝えて下さる重みが違います。
- ・がんと言われたときの気持ちや治療について体験された方のお話はとても貴重であり、分かりやすく不安を取り除いてくれるものであった。
- ・命の尊さや周りの方への関わりなど、ご本人でしか分からないことが分かり、子どもたちにもより伝わるから。
- ・実際になった方が語る言葉には力があると思っています。伝えて下さることに感謝します。
- ・実体験から子どもたちへの気持ちが伝わってくる。
- ・説得力があり、がんに対する子どもたちのイメージがくつがえり、子どもたちも引き込まれるから。

- ・実際に「死」への不安を感じたことがある方の話は、子どもたちにとっても重く受け止められ「死」への不安のない人の話を聞いても迫れない重さがあるのでとてもよい機会になりました。
- ・実体験を教えていただけるので、子どもたちの心に響いた。
- ・実際の体験をもとに話して下さるので、表面だけではなく心情面など深く考えさせられることができるので。
- ・私たちがこのような授業をするより、体験された方が話された方がイメージもしやすく、じっくりと心で受け止めると思います。
- ・がんイコール死というイメージが強いと思うので、がんとの共存や変わらずに生活ができる点など、患者さんだからこそ伝えられることがあり、患者さんに会うことで感じるものがたくさんあると思います。
- ・子どもたちががん患者に出会う機会がなく、がんの病気にかかるとすぐに死んでしまうという悪いイメージを持っているので、直接会うことでがんになっても元気に生きることが出来るという良いイメージを与えることが出来ました。
- ・経験者が語ることで、話の説得力が増し、子どもたちも真剣に聞くことができると思うから。
- ・言葉の重みがある。かみづるさんの「バトンを渡す」その思いは、私たちが伝えられないことが伝わったと思う。
- ・実体験は子どもたちにもインパクトが強いので真剣になって聞いていた。
- ・切実さが全然違うと思うから。でも体調次第で無理しないでほしいとも願っています。
- ・命の大切さ、元気に支えられていることのありがたさに気づかされるから。
- ・実体験をもとにした話は説得力があるから。
- ・生きている毎日の大切さに気付くことができました。子どもたちがこれからの人生で、もしかしたらがんを患うこと、身内の人ががんになることもあるかもしれません。そんなときに「こんなこともあったな。」「つらいのは私だけじゃない。」を心の支えにしてほしいです。また身近にがんになった人の話を聞いたとき、支えてあげられるような存在になればと思います。
- ・元気そうに話して下さるけれど、治療中であるということからがんであっても精一杯生きていらっしゃる、生きていられることを実感できたと思う。また一言一言に説得力があったと思う。
- ・患者さんの率直な意見や体験談は子どもたちの心に深く届き、学びがとても有意義なものになっていたようでした。
- ・お体に支障がなければ。やはり体験した方のお話は心に響くので。お聞きできる機会はありがたいです。
- ・その方の本気がよく伝わると思うから。
- ・実際に経験している方の言葉には力があるのでより心に響きます。
- ・がんに対するイメージの変化が子ども達の中で見られたこと。
- ・命のありがたさを人一倍感じる時間をもっていらっしゃる方がご自身の体験を語られることでより生きていることのすばらしさを子どもが実感できたと思うから。
- ・経験されたことを直接伝えることに価値があると思います。

- ・実際その方がいらして話をしてくださることにより、子どもたちには強く心に残ったから。
- ・当事者の方が話すと呼びかけ方が違うなと思う。時折、言葉に詰まる姿はとても考えさせられるものでした。
- ・やはり経験された方の話には説得力がある。
- ・子どもたちも当事者の話として授業に臨んでいた。一言の言葉の重みを感じることができた。
- ・我々人間はがんにかかる可能性があるので、知識として若いうちに知ることは有意義だと感じたから。またがん患者の方への対応も知ることもできたから。
- ・実体験を話して頂くことで子どもの心により届いたと思います。

【中学校】

- ・最近の状況から「知ること」、予備知識として貴重な機会と捉える。
- ・がん患者さんの生活については、私の身近にいた人の体験談を紹介するなどしましたが、やはり「百聞は一見にしかず」と言いますので実際に病気を経験された方が講和をされる今回のような授業は大変ありがたいと思いました。
- ・実体験をもとに話をされることで子どもたちも真剣に聞けるから
- ・がん患者さんが元気になるということが、がんは怖い病という認識しかない子どもたちにとって驚きであり、身内などに病気に人がいる場合、励みになると思った。何よりも言葉一つ一つに強い力があり、説得力があると思う。
- ・家族や身近な人にがんを患った生徒で授業に参加出来ない生徒もいました。しかしその他多くの生徒は病気や命のついて真剣に考えるよい機会になりました。
- ・事前授業から事後授業までの流れの中でがん患者さんが話をしていくのはよいと思いますが、事前授業の捉え方次第だとも感じます。
- ・借りてきた言葉ではなく自分の思い、痛みを自分の言葉で伝えて頂けるから。
- ・がん患者の方が生の声で語るその迫力は何者にもかなわないと思います。
- ・知識として教えるだけではなく実際に経験してのお話は重みがありました。生徒たちの持っていた「がん患者さん」のイメージを変えてくれるものでもあったと思います。
- ・子どもの心に訴えるという意味においてそれ以上のインパクトはないと思います。それが良いか悪いのかの判断はつきません。
- ・「生」について「死」に直面した方々に話してもらうことで、「現実」のこととして受け入れ話を聞くことができるため。これからの「生きる」を考える機会となるため。
- ・担任が話せること、教えられることには限界がある。第三者の方に入ってもらえることで、生徒の考えは深まると思う。
- ・生徒にとって目の前にいる人が患者さんだととても現実的に感じとれたりするから。遠いことではなく身近にもそして自分自身にもがんになる可能性があり、毎日を「生きること」を実感することができるから。
- ・実際にがんになった方々の話を聞くことによって、生徒にも「命の大切さ」がよく分かり強く伝わ

ると感じた。

- ・説得力がありますね。
- ・実際の体験や気持ちについて知る・学ぶことができるのでいいと思います。
- ・実際に経験された方の生の声というのは、やはり説得力があると思う。
- ・導入が大切だと感じました。
- ・他人事という意識がまったくなくなり、生徒の姿勢や聞く姿がまるで違う。当事者にしか分からない感情を率直にぶつけられると固まってしまうほどのインパクトがある。
- ・実際ががん治療または亡くなった方を身近にもつ生徒の状況による部分があると考えました。学校の規模によっては実施にむけて計画的、密な連携が必要かと思います。学校側としてせっかくの来校を中途半端にしてしまうかもしれない体制であれば、患者さんの皆さんに申し訳ありません。教えて頂くことに関してはありがたいの一言です。
- ・子どもたちが前のめりになって聞く姿があった。説得力のある話、身近な話として聞けて良い経験になると思う。
- ・やはり教師が子どもたちへ知識をなどを教えるよりも生の声を聞いた方が子どもたちの心に届くと思うので。

■子どもたちにとって良かったという点（その他）

【中学校】

- ・明日は我が身と真摯な気持ちになれる
- ・困難や苦しい状況に陥っても決して逃げないこと。苦しいときは誰かに頼ったり救いの手を求めたりすることも必要だということ子どもたちは実感できたと思う。

■子どもたちの様子はどうか

【小学校】

- ・授業の中で話を真剣な眼で聞いていた
- ・授業を受ける前まではすごく重たい学習のイメージだったようですが、「生きているだけですばらしい」「相手を思いやる大切さ」などが心に残ったようで、授業後はスッキリした表情の子が多いように感じました。知識だけではなく、いろいろなものを感じてくれたのだと思います。
- ・真剣に興味をもって聞くことができ、自分の疑問や質問に答えて頂けたのがうれしかったようです。
- ・授業を受けながら、涙を浮かべている生徒がいました。改めて命の尊さや一生懸命生きることのすばらしさが分かったようで、事後の感想文にも思いがしっかりと書かれていました。
- ・がんについての知識や身内ががんになった方がいない子にとっては個人差がありますが、皆真剣に話に耳を傾けていました。感想を読むと子どもたちなりに受けとめ、命について考えてくれたようです。
- ・真剣な表情で話をきいていた。同じような場面になった時、どんな風に考えたらよいか伝わっていた。

- ・命の大切さを学ぶとともに、普段、自分たちが軽々しく使ってしまうこともある「死ぬ」という言葉やその意味をしっかりと捉えることが出来たと思うし、子どもたちの表情も真剣だった。
- ・私が日常行う授業より真剣に臨んでいました。つばやきやうなずきをよく見かけたので、授業に集中していたと思います。
- ・じっくり話を聞いており、ねらいに沿った学習ができた。
- ・子どもたちによって感じ方は様々だった。がん患者さんの気持ちや周囲の人の関わりに目を向けた子、「死ぬ」という言葉遣いについて振り返り反省した子。多面的な効果があったと思う。
- ・いつもはわいわい楽しい様子ですが、今回はじっくりと話を聞いており驚きました。きっと心に届いてくれたのかなと思います。
- ・1時間集中して話を聞いていました。普段よりも真剣な態度で学習できていたと思う。
- ・とても真剣だった。心に響く授業を受けその後の表情に考えた姿を感じました。
- ・実際に経験している人の体験だったり、お話だったので真剣なまなざしが印象的でした。とてもよい学習ができたと思います。
- ・少し緊張している様子でしたが、多分それは真剣だからです。その後、日記やお手紙にそれぞれの思いを手をとめることなく書いていました。自分と見つめ合うことができたのだと思います。
- ・真剣に聞くことができ、それぞれ考えることが多かったようです。
- ・よく話を聞いていた。涙する子どももいた。
- ・私が泣きすぎて動揺してしまいました。。心に響く素晴らしい授業で日記に書いてくる子ばかりでした。
- ・涙して聞く子どももいて、じっくり聞いていた。やはり「生の声」の力ってすごいなと思った。
- ・心の深いところを掘り下げてよく考えていたと思います。
- ・予想以上に真剣に聞いていました。風邪などで欠席がいたことがもったいなかった。
- ・とても真剣に話を聴いていた。涙ぐむ子もいた。事後の日記でも反応が大きかった。
- ・なかなか実際の行動に現れてこないところもあるが、あの時間はとても真剣に取り組み、それぞれに考えながら聞いたと思います。

【中学校】

- ・普段の授業では落ち着かない生徒も真剣に話を聞いていました。
- ・机に伏せていた子どもも含めて、よくお話を聴いていました。
- ・それぞれにいろいろ考えて受けとめたようです。
- ・一部にそれを素直に表し伝えることができにくい子もいてすみません。
- ・思っていた以上に真剣でした。普段、道徳の授業であまり文章の書けない生徒も熱心に書いていました。最初ががんの人がわざわざ来るの？と落ち着かない様子もありました（すごい病気の人があると思っていたらしい）三好さんの笑顔に安心した子どもたちが多かったようです。
- ・日頃、友人への言葉かけに問題を抱えている生徒たちだったので、いのちの大切さ、言葉の大切さなど考え直す良い機会となりました。生徒たちの中には身近な人ががんで亡くなっていて涙をこらえ

ながらお話を聴き、亡くなった身内の方を想い偲んでいたことを翌日の日記で知ることが出来ました。ほとんどの生徒がその日の日記に「いのちの授業」のことを書いてきたことから生徒たちに与える影響は大変大きかったし、価値あるものだったと思います。

- ・改めていのちについて考えられたようである。
- ・個々に深く考えたものがあったようだ。
- ・今まで見たことのないような真剣な表情で話を聴く姿が印象的でした。
- ・今回の機会で生命についてより良く人生を生きることの尊さを学べたように思います。
- ・それぞれが「命を大切にしたい」ということを感じていた。日記等にも書かれていた。
- ・子どもたちのがんという病気に対するイメージや受けとり方は様々ですが、授業後の日記や感想文を見る限りではがん患者さんの生の声を聞く貴重な機会を通してそれぞれ「病気」や「命」今後の人生の送り方などたくさんを感じ取れたようです。
- ・真剣に聞き、生きることの大切さについて改めて考えたようでした。

■アドバイスや感想

【小学校】

- ・いろいろな準備等大変だったと思います。子どもたちには貴重な話を効けたことはとても良かったと思います。。ありがとうございました！
- ・今回このような機会を与えてくださり、とてもよい体験ができたかと思います。自分の家族にがんの方がいる子どもたちもいたが、しっかりと向き合うことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。またこのような機会があればぜひ受けさせてもらえればと思います。ありがとうございました。
- ・今回松下さんが初めて語り手として授業をされるということで楽しみにしていました。おだやかな分かりやすい話し方で子どもたちの質問に丁寧に答えて頂きありがたかったです。もうすこし時間があったら、話を聞いた直後の子どもたちの気持ちを松下さんにもお伝えできたのかなと思います。
- ・どの方ががん患者さんなの？と授業前から興味津々の子どもたち。いつもの授業より真剣に話を聞いていました。実際に病気を体験した方の話を聞くことでそれまでにイメージしていた怖い病気だという思いから普通の生活ができるんだと不安を取り除くことが出来たと思う。とくに上水流さんの言葉は印象に残っていて「生きてるだけで金メダル」と口にする子どもが多かった。これから自分の命、他人の命、すべてを大切にできる人間へと成長して行ってほしいと思った。本当にありがとうございました。
- ・授業の進め方が理にかなっていて、児童のスムーズな理解につながっていると思う。また、子どもたちの心に寄り添うプログラムになっていると思う。授業やアンケートの御返事ありがとうございました。
- ・この度は本クラス児童のために優しく丁寧な授業をして下さいまして本当にありがとうございました。難しい時期の子どもたちで素直に話が聴けるか当日まで心配でしたが、ご本人との出会いやご本人からの生の声を聞くことでじっくりと耳を傾けていたように思います。
- ・子どもたちは自分の体、命についてはあまり実感はないのかもしれませんが「がん」のことについて

て知ったことで、身近にいて下さる家族のことをより大切に思う優しい気持ちや、医学的なことに関する学びへの興味など、広く深く学べたと思います。本当にありがとうございました。

・私自身2回目の「いのちの授業」でした。このような形で子どもたちに語ってくださるといのは子どもたちにとって大変貴重なことだと思います。

・私も親族を2人がんで亡くしており、正直お話を聞いていて涙が止まらなくなりそうでした。しかし、ベッドでの表情、亡くなる前日、手をぎゅっと握ってくれたことなどを思い出すことができ、改めて亡き二人のことを思い出すことができました。そして、それを子どもたちに話す機会を与えて頂きました。本当にありがとうございました。

・大変心打たれる授業でした。命の大切さについて、普段、なかなか振り返るが少ない中でこの授業で大いに見つめ直す機会になりました。また、子どもたちも自分や友達を大切にしようという気持ちを持つことができ、改めている姿も見られました。

・まず、事前の準備（アンケートの集約と授業への活用計画）の周到面に感心させられました。また事後の返事もあるということで、様々なご苦労がることにも頭が下がります。そのような実践は発信するパワーにつながり、受け手の側にも多大な影響（メッセージ）を与えて下さるのだらうと思うことでした。普通に感謝という言葉に我々大人も「はっ」と気づかされることでした。貴団体の方々の活躍を願いながら、諸講師の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

・細かい資料が用意され、私たちの授業への不安なく臨むことが出来ました。命の大切さについて学ぶことは子どもたち一人一人が出来ていました。ただ、実態として日々学級の中では「死ぬ」といった言葉が出てきます。そこに結び付けていくのは私たち担任の仕事なのですが、そのきっかけを作ってくくださったことに大変感謝しています。また授業の内容については私自身にも勉強になることばかりでした。

・子どもたちに「死にたい」と思ったことがある人ということで、手を挙げさせましたがそれは正直ないほうがいいのではと思いました。子どもたちも勇気をもって手を挙げていましたが、そのことでその子に何か返せる（心のケア）が出来るわけではないですし、その嫌な思いを蘇らせるのではないかと思います。更にその思いを引きずる可能性があります。とてもデリケートな部分で、クラスの子で手を挙げた子がいる、いないとするのも「がん教育」の趣旨からずれてしまう気がします。申し訳ありません。上記のようなこと以外、心に響くことばかりでした。本当にありがとうございました。

・今年度も貴重なお話をありがとうございました。感想も書かせたのですが「もっと家族との時間を大切にしよう」「自分はこのままの自分でいいんだ」なお、心に響いていたようでした。「いのち」の大切さもですが、言葉遣いについても触れただきありがたかったです。この授業の後もついつい気持ちのよくない言葉を使って友達を傷つける姿もありますが、一歩ずつかなと思います。「いのち」「家族や友達」「自分」について考える素敵な機会でした。

・いつもありがとうございます。授業では、お話をしてくださる方の気持ちが子どもたちにたくさん伝わるいいなと思って、少し心配しながらみっていますが、授業後の感想文を読んでがんという病気や患者さんのことだけではなく自分自身を振りかえって考えている子どももたくさんいて、6年生のこの時期にいのちについて考えるだけではなく子どもたちの成長を感じるこの時期の素晴らしい機

会になっています。また来年度もよろしくお願いします。

- ・喫煙やアルコールだけではなく、食生活や運動など日常の生活習慣が原因でがんになってしまうことがあり、食事をバランスよく取ろうという気持ちや運動を毎日進んでしようという気持ちが強くなった。

- ・私も子どもたちと一緒に命の大切さについて学ぶことが出来ました。涙ぐんでいる子どもも多くおり、友達の大切さや家族の大切さ、そして自分の命の大切さについて改めて気づくことが出来ました。堂園先生に授業をしていただけたこと感謝しております。

- ・先日は貴重なお話をありがとうございました。子どもたちは事前学習でがんについて学んでいましたが、やはり実際に体験された方からのお話はとても心に響くものだったようです。

- ・何度お話をお伺いしても心にどんと響くものがあります。「いのちの大切さ」「生きねばならない」「1日1日を大切に」ということの意味を考える機会となりました。私も子どもたちに何を伝えて卒業させていくか、1つ明確なものが見えたように感じました。生きることのすばらしさを伝えられる教師でありたいと心から思うことでした。

- ・45分という時間では、足りないくらい充実していたと思います。まだまだ聞いていたいと思う部分も多かったです。この取り組みがまだまだ広がっていけばと感じました。

- ・私個人としては2回目の授業、どんな話（進み）になると分かっている、大人の側の気持ちになって考え、涙が出ました。今、私の同級生の妹がステージ4で自宅で（通い？）治療中ということをして昨年秋に聞き、友達の電話につき毎回どきどきしながら出てしまいます。でも、その妹さんが最期が来てしまうかもしれないけれど、いつかみんなに来るけれど）その日まで自分らしく生きていけますようにと願っています。そして私も検診を受けようと思います。

- ・命の大切さについて考えるよい機会となりました。生きることに前向きでない子もいたのでよい刺激になったようです。「死ね」などの言葉もその後少なくなりました。今回感じたことを忘れずに頑張ってもらいたいです。お忙しい中、子どもたちのために貴重な時間をいただき、本当にありがとうございました。どうぞお体に気を付けて今後も「いのちのバトン」をつなげていただけるとみんなの生活が豊かになるのかなと思いました。

- ・実体験をもとに話をしているので説得力があった。どんな教材を使っても、がんを患った人の話には叶わないと思った。またがんを患っても元気に社会復帰ができることを知ることで、がんに対するイメージが変わったと思う。また授業で出てきた「生きているだけで金メダル」「命のバトンを渡す」は深い言葉で子どもや私たちを励ます言葉だと感じた。ぜひ、他の子どもたちにも命の授業を通して命の大切さや深い言葉を伝えてほしいと思った。

- ・上水流さんと野田さんによる命の授業、お二人との出会いは私自身にとっても、子どもたちにとっても大きなことだったと思います。上水流さんが最後まで自分らしく生きる姿、最後のバトンタッチの写真、涙が止まりませんでした。いくつになっても辛いな、苦しいなと思うことはあると思います。そんな時にこの「いのちの授業」を思い出せたなら生きていることの素晴らしさを思い出せたなら、どんなに良いかと思いました。これから私自身も私らしく前を向いて生きていきたいと思いました。また生きていることのすばらしさを伝えられるような教師になりたいと思います。素敵な授業をあり

がありがとうございました。

・アンケートにもたくさん答えていただけて、子どもたちもよかったと思う。卒業前で学年自体、いろいろと人間関係に悩む子どもも多かったので、本当によいタイミングでお話を伺えてよかった。がんで家族を亡くした子どもたちも「命のバトン」を引き継いで精一杯生きようと思えたのではないだろうか・・・。

・自分にはとてもできない素晴らしい授業でした。ありがとうございました。

・生活習慣を正すことの大切さや検診の大切さも分かっているけれど、やはりかかってしまうときはかかってしまうし、受け入れなければならぬ恐怖や悲しみを思うと言葉になりません。でも、皆さんはそれを乗り越えるばかりか周りの人たち、同じ立場の人たちまでサポートしていらっしゃる。すごいな、強いなと思います。

・講師の方の力強い言葉に子どもたちはひきつけられていました。前向きに自分らしく生きることの大切さが心に沁みたと感じます。校内人権月間だったこともあり、事後もいろいろな場面で今日の授業のことを振り返ることができました。

・がんという病に対して前向きに生きようとする皆さまの話を聞かせて頂き、子どもたちも大きな感動を受け、命を大切にしようとする声がたくさん聞かれ担任としても嬉しく思いました。私自身もがん検診に受けなければなと思っていましたが、時間がなかったり結果が怖かったりしてなかなか行き出さないところです。が勇気を出していってみたいと思います。

・三好さん野田さんの授業は胸にこみ上げてくるものがありました。たくさんの命を頂いて今を生きている私たちはまわりに感謝しながら、今を大切にしなければならないこと、今を精一杯生きることの大切さを改めて学ぶことが出来ました。

・命の大切さを知ることができ、学級内の雰囲気も更に良くなった気がします。お忙しい中、ありがとうございました。

・講師本人の生きざまのみならず本校OBの上水流さんの生き方や残した言葉にかなり感銘を受けていたようです。感想だけでなく当日の日記にも綴られていました。明るくテンポの良い語りに子どもだけではなく担任も引き込まれました。本当によい機会をありがとうございました。

・実際に治療を受けている方から話をいただく機会はほとんどないので、児童にとっては貴重な経験となりました。最初の質問はドキッとしました。だからこそ生きていくことの大切さを感じずにはいられませんでした。私自身も今年大変つらい思いをした経験があります。だから優しくなったという石窪さんの言葉がとてもよく分かりました。前向きにしっかりと生きていきます。

・身近な人ががんを患われている場合、事前にどんな言葉かけが必要だったのか自分自身も悩みました。人それぞれではあるのですが実際に「こんな言葉かけは・・・」等の例を教えて頂けると嬉しいです。授業の内容も非常に精選されていて、子どもたちにとっても分かりやすいものでした。一人一人の質問に対する回答も丁寧にいただき、子どもたちも嬉しかったようでした。心のこもった授業、ありがとうございました。

・病気についての知識を増やすだけではなく、友達や自分の命を大切にすることがあらためて認識できる授業でした。

・子どもたちがお話をよく聞いていたのが何よりでした。いろいろとぶしつけな質問をする子達ですが、それなりに命の重みや生きていることのありがたさ、周りのサポートによって生きていること等、実感できたように思います。

・授業の流れですが冒頭に上水流さんの言葉を紹介して、がんと闘ってきたひとだということを伝えたらどうでしょうか。そこからがんとはどういう病気なのかに続くと上水流さんの存在をもっと大きく扱えるのかなと思いました。私見です。

【中学校】

・貴重な時間ありがとうございました。脳裏には今まで縁のあった友人、知人、同僚の懐かしい面々があり少し目頭が熱くなった次第です。授業を通して命の尊さを学び、周りに優しく接することができる生徒が増えたものと存じます。今後はいろいろな活動で今回の授業で培った事を思い起こしながら絡めながらさらに「命」の意味を深化させていく所存です。

・私は昨年も3年の担任をしておりまして2年連続で「いのちの授業」を行うことができました。一度だけではなく2度3度、生徒たちもその時々年齢に応じて様々に感じとり命を考える糧となる授業なので、また高校生になってもこのような機会があるといいのになと思いました。

・事前授業をしてみて生徒が案外がんについてあまり知らないということが分かりました。がんになると助からないと思っている生徒もいたようです。がんについての正しい知識がわかっただけでも良かったですが自分の「命」について振り返ることが出来たこともよかったです。次の日の日記にはいのちの授業についてコメントしている生徒が多くいました。

・子どもたちが失礼なことを言ったり、失礼な態度がないか心配しながら迎えた授業でしたが、普段居眠りをしてしまったり、交友関係がうまく築けない子たちも熱心に真剣に話を聴く姿が見られ、正直驚いています。またこのような機会をいただいたことに感謝しております。

・私自身も子どもたちと一緒に聞き入ってしまうぐらい多くのことを考える授業でした。子どもたちも感じるものがあつたらしく次の日、多くの感想が書かれてきました。このように「いのち」について考える機会を与えてくださり、本当にありがたく感じます。きっとこの子達が高校生になり、大人になり・・・としたときに今回の授業を思い出し、考えるときがくると思います。そこで「いのちのバトン」の話を知っているだけで考え方が全然違うのかと思います。素敵なこの取り組み、ぜひ続けられて多くの子どもたちに「いのちの大切さ」を伝えていただければと思います。本当にありがとうございました。

・取り組みをより計画的に煮詰めて実施できるよう、係との関わりを早めにできるとより教員にとっても深まることと感じました。

・一番感動したのは話を聴く生徒の姿を見たときでした。50分間、私語は全くなく動く者、背中が曲がる者いない。みんな姿勢正しく集中してまっすぐな眼差しで話を聞いていた。生徒の心に突き刺さるストレートな言葉や感情はそのまま子どもたちに響いているのが見てとれ、「これが心に響く本物の授業か」と思いました。教科の指導をしている私たちは「より深く生きる」ために様々な知識や技能を教えます。が、「生きること」自体にこんなにも向き合い考えた50分は私にとっても初めてでし

た。今のバトンをつなぐための教員としての使命を果たさなければと改めて感じました。

・この学習をするにあたり3時間の時間が必要になってくる。必要な学習ではあると思うので、時間配分が課題になると思いました。今回、このような機会をいただき、私自身学ぶよい機会になりました。「いのち」について様々な事柄を通してこれからも考えていきたいと思いました。野田さんの最後の言葉「誰かが生きたかった今日」が生徒同様に私も心に響きました。

・自分も含め生徒の身の回り（近親者）にもがん患者が多くがん＝死というイメージが先行せざるをえない状況の中、がんという病気を乗り越えた方の話は聞く者にそのイメージを払拭してくれたと思います。事前授業の準備からご指導いただき感謝しています。

・今回の授業を通して、生徒は「いのちの大切さ」について改めて考えることができました。そして私自身も実際にがんになった方がどのような思いであるのか、またがんについての知識など詳しく学ぶことができ、有意義な授業であったと思います。これからも機会があるごとに、「いのち」の大切さについては生徒に伝えていきたいと考えております。

・中学校では日々いろいろな問題が起こります。それと同時進行で3年生は進路のことも考える・・・特にこの時期は進路の話ばかりに話がいつてしまって、子どもたちが見てほしい「今」がなおざりになってしまう現実があります。きっと家庭でもそう。入試、入試！と言われでも高校生になれば今度は大学入試！就職だ。と「今」目の前のことに私たちや保護者がどれだけ向き合っているか・・・でも「今」のことに不安があったり、嫌な気持ちがあるから、中学校ではそれがいろいろなかたちでいわゆる問題行動になっていく・・・そして子どもたちも「今」に不安がありながら、それには向き合えていない・・・今回のお話をきいて子どもたちは本当に「今」の自分と向き合える時間がもてたと思います。ダメな自分。成績も伸びない自分。志望校にもほど遠い自分。でも、それでいいじゃないか。それでも前を向いて生きていこう。そう思えた子どもたちがたくさんいました。自分自身を受けとめることのできた1時間だったと思います。ありがとうございました。

・生命の重み、言葉の持つ重み、生命の有限性など日頃忘れかけてしまいがちなことを思い起こさせていただきました。折りにふれこのような機会をもつことで、不用意な発言が減ったり、生命尊重を大切に思う心が育まれると思います。生命について若者がしばしばそれらを軽んずる言動をとることがありますが、それは身近な死に接する（向き合う）機会が減ったからではないかと思います。おそらく、生命の授業と死について考える授業は別物ではなく同一、あるいは延長線上にあるものではないか、そんな思いがしたお話でした。

・あとで「知っていてよかった」と思う内容だったかと思います。人のことをしっかりと考えるひとつの機会になったので良かったです。

・生徒たちの多くは翌日の生活の記録にも感想に書いてくるなど、心に響いたようでした。「がん」というかかってしまったらどうにもならない怖い病気というイメージを最初は多くの生徒が抱いていました。しかし講師の方の明るく元気な様子や病気に負けず辛いことに対しても立ち向かっている様子に、自分の生き方や命ということについて振り返り、改めて考え直す時間になったのだと思います。

・とても大切なでもどうかすると重くなりそうな話を明るくでも真剣に話してくださり、いつもガチャガチャしているけれど、シーンとして真剣に聞いていました。残念ながら反応が薄くて申し訳なか

ったですが、生活の記録にも何人かいろいろ書いていました。私自身も思った以上に気が高ぶってしまい申しわけなかったです。でも心に残る授業になりました。

- ・実体験をともなう話だったため子どもたちも保護者もとても真剣に聞き、家族や命のありがたさを痛感したと思う。もっと聞きたいと思うくらい、あっという間ですーっと話が入ってきました。

- ・がんや命について深く考える機会をいただきとても感謝しております。今回学んだことをいろいろなものにつなげることができるよう意識していきたいと思います。

- ・授業の内容は大変すばらしく本当にありがたかったです。野田さんには心より感謝しています。ただ日頃から「死ね」の暴言が口癖ようになっていてその言葉を使うことを禁じられていることにも慣れきっている何名かの生徒の心にまで野田さんの思いがきちんと届くにはまだまだ時間がかかりそうです。(本当は届いているのかもしれませんが「彼ら彼女らの態度の変容に至るまでは」と言い換えの方が適切かもしれません)

- ・生徒たちが「がん」については「命」について考えるよい機会となりました。感想に目を通して真剣に話を聞いていろいろと感じとってくれたのだなというものが多く、今回お願いをしてよかったと思うところでした。また保護者の方からもとっても良かったですという声をいただきました。私も、今回のお話を聞いて、改めて今持っている自分の命を大切に一生懸命生きたいと感じ、もしがんなどの病気になっても、よりよく生き抜いていきたいと感じました。特に私自身、がんは身近なものであると思っているので、そんな覚悟ができたかなと思います。

- ・身近な人が目の前で息をひきとっていく様子をあまり目にしなくなった今、このような機会を通じて「生・死」や「生き方」「関わる人々」についてなど考えさせられることでした。特に進路・人生についてこれから大きな分岐点にさしかかる中学3年生のこの時期にはぴったりだったと思います。子どもたちが真剣に三好さんの話を聞く姿も見られてハッピーでした。

- ・生徒たちが真剣に耳を傾ける様子が印象に残りました。当たり前前の日常がいかに大切かということを私自身感じる一時間となりました。

- ・授業の時に見たスライドを小6の時にも見たことがあったと言っている生徒が数名いました。2回目だったようなので内容が違うものだと良かったのかもしれませんが。普通に元気に暮らせる日々のありがたさについて再認識できた生徒も多かったようです。貴重なお時間ありがとうございました。